

天使 1 「(新入り天使紹介) みてみて、かわいいでしょ！」
天使 2 「おお、新入りだなー？」
悪魔 「よっしゃ俺が指導してやるぜ！」
天使 2 「ん？なんであんたがここにいるのよ！？」
悪魔 「うるせえ！世の中天使がいれば、悪魔もいるんだよ！」
新入り天使 「お姉ちゃん、こわいよう」

新入り天使、天使 1 に寄り添う。

郵便屋さんが木のポストに配達する。

郵便屋 「子どもたちからのお手紙です。」
木 「ごくろうさま。」
東サンタ 「さあ、のんびりしてる暇はありませんよ。今年も世界中の子どもたちからのお手紙が
いっぱい届いてるはずですから」
西サンタ 「ねえちょっとそこの天使と悪魔、子供達の手紙をポストからとって来てくれる？」
悪魔 「えーなんで俺らが？」
天使 2 「そういうのは新入りの仕事でしょ～？」
木 「良いところ見せてやろうぜ、セ・ン・パ・イ」
悪魔、天使 2 「俺たちが先輩！？」
悪魔、天使 2 「先輩か～」などとニヤニヤしながら箱のところへ。

悪魔、天使 2 が浮かない顔で手紙を持ってくる。

サンタ達と木がそれを覗くが中は殆ど空っぽ。

西サンタ 「えー？これだけ～！」
北サンタ 「なんでだ？」
悪魔 「おめでたいね。今の世の中わかってないねえ。
子どもたちがサンタクロースの存在を信じなくなってるのさ」
天使 2 「プレゼントをもらうより、お小遣いをもらって自分の好きな物を買う方
がいいですよ」
東サンタ 「昔はね、もっとたくさんの手紙が来ていたんです。
ぬいぐるみとかサッカーボールとか、世界中の子どもたちが欲しい物を書いて手紙
を送って来てくれていたんです。」